

## 個別支援対応の一例

### 生活困窮者支援担当課との協働

【実施主体】群馬県渋川市

#### 【概要】

「死にたい」と相談来所された方への支援に関する取組。  
市役所総合窓口が来庁した市民の様子から、庁舎内保健師に繋ぎ、そこから精神保健担当課の保健担当者に繋がったケース。本人の主訴から生活困窮担当部署と協働し、支援に向けての取り組みを行った。

#### 【大綱の分類】

1. 地域レベルの実践的な取組への支援を強化する
7. 社会全体の自殺リスクを低下させる

#### 【政策パッケージ分類】

- 基 1) 地域におけるネットワークの強化
- 基 2) 自殺対策を支える人材の育成
- 基 3) 住民への啓発と周知
- 基 4-1) 居場所づくり
- 基 4-2) 自殺未遂者等への支援
- 基 4-3) 遺された人への支援
- 基 5) 児童生徒の SOS の出し方に関する教育
- 重 1) 子ども・若者
- 重 2) 勤務・経営
- 重 3) 生活困窮者
- 重 4) 無職者・失業者
- 重 5) 高齢者
- 重 6) ハイリスク地
- 重 7) 震災等被災地
- 重 8) 自殺手段
- その他 (いずれにも該当しない、妊産婦、マイノリティ等)

【事業実施年度】2021 年

【事業予算】¥0

#### 【利点】

▼市役所内各担当者との連携による個別支援対応

#### 【実施に至るまで】

##### 背景・必要性・理由の概要

- ①自殺対策計画における庁内連携と多機関協働事業を目標として取り組んでおり、庁内連携を密に行う中で、情報を共有し、ヨコの繋がりを生かしてケースに対応した。
- ②【協働で支援したケースの概要】  
27 歳 女性 一人暮らし (住所地とは別のところに住んでいた) 相談日から 2 ヶ月前に本市に転入。事前情報なし。

当市には転入からあまり期間がたっておらず、死にたくなった時の相談先がわからずに市役所に来庁。アームカットをしたばかりで、両腕から出血していた。市役所総合窓口から庁舎内の保健師に相談。初期介入保健師より精神保健担当課に繋がる。

本人の生育歴（相談時の聞き取り）から、親からの虐待、暴力団関係者との共同生活、人とのコミュニケーションの苦手さから来る職場環境の難しさ、過去のアームカットやオーバードーズによる受診歴などあり。度々、「死にたい」気持ちになりながらも頑張ってきたと思われた。

今までは派遣での働き先があり就業できてきた。勤めても仕事先で体調が悪くなったり人間関係の苦手さから、仕事を転々としてきた様子。

「死にたい」とい気持ちを抱える相談者には、何らかの理由により、収入がなく生活に困っている人は少なくない。また、精神疾患を抱え就業できずに困っている人もいる。今回、新型コロナウイルス感染症の流行により、就業先が限られてくる中で働き口もなくなり、生活の困難さが大きくなったことも「死にたい」理由となっていた。

生活困窮担当課には、コロナ関連生活支援により支援金受給のために別日に来庁していた。生活困窮担当者より心配なケースとして情報提供があった。

#### 事業計画を立てる上での工夫

①自殺予防と言うことを念頭に置き、本人に関する相談支援内容の情報共有をしっかりと行う（連携については本人の了承あり）

②対応方針についても共有する

#### 事業の具体的な内容

以下の3点について関係部署で共有

▼本人の「自分で頑張りたい」気持ちの尊重し、関わりについても共有

- ・自分は働ける。働けるうちは働きたい。
- ・「死にたい」気持ちは否定しない。
- ・困っていることを認める
- ・支援できること、支援できないことの明確化

▼定期的な受診に繋げる

- ・定期受診について指導の実施
- ・精神保健担当として精神科医師によるスーパーバイズ。担当医療機関との連携、「生きたい」気持ちの尊重、アームカットへの対応

▼本人の来庁のタイミングを逃さない

- ・精神保健担当者からの連絡は、無視が多く、定期的な連絡は取れなかった。生活困窮者担当課へは支援金の受給のため、定期的に来庁していた。本人の様子や相談先については、生活困窮担当課から確認し、本人へ指導してもらう。

#### 【成 果】

- ▼本人とのコンタクトがとりにくく、本人のタイミングによる来庁しか接触する手段がなかったことから、庁内関係部署で情報共有を行うことで、本人が来庁した時を逃さず対応する体制を築くことができた。

#### 【補 足】

▼2022年度に入り、生活保護を受給し、定期受診に繋げることができた。

本人との相談の中で、受診できない理由として経済的な困窮があげられていたことから、生活保護担当部署と連絡をとりあい生活保護の受給が開始となった。

本人には、「生活保護は働けない人が世話になるところ。（身内に生活保護受給者がおり）あんなふうになりたくない。」という強い考えがあったが、「頑張ってきた人、働きたいと思っても心身の状況により働けずに困っている人が利用し、リスタートできる準備をするための制度である」ことを説明。定期受診に繋げるために本人に説明し、生活保護に相談することを説得した。

#### 【課 題】

- ▼特になし

【事業種別】	自殺未遂者等への個別支援（精神保健個別支援）
【準備期間】	0日
【人数】	4人（担当職員）
【人口規模】	75,423人（2021年4月1日現在住民基本台帳人口）
【財政規模】	¥32,930,000,000（2021年度一般会計当初予算）
【自治体負担率】	0%
【事業対象】	自殺未遂者等で相談支援を希望する者
【支援対象】	自殺未遂者等及びその家族
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	TEL : 0279 (25) 1321 群馬県渋川市スポーツ健康部健康増進課 Mail : kenkoh1@city.shibukawa.lg.jp

【参考資料・文献】

なし